

徽雨の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員諸兄に於かれましては、益々ご清福の段 大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

さてGW真っ最中の五月三日、都城駐屯地にて高等工科学校宮崎県育成会総会が今年入校した五十九期生徒等も参加して開催され、終了後駐屯地内の郷土館を見学・研修させて頂きました。

この「郷土館」は明治四十三年に移駐した「歩兵六十四連隊本部跡」で、更に大正十四年から「歩兵二十三連隊」が同じく連隊本部を置いたようです。戦後は一時県立都島高校として使用されましたが、昭和二十五年警察予備隊発足後、翌二十六年八月鹿屋市から第十二普通科連隊第二大隊が移駐し、大隊本部として使用された歴史的建造物との事でした。

私も初めて入館しその収蔵品の多様さに驚かされ、平塚館長の軽妙洒脱なご説明をお聞きし乍ら、百年の歴史の重さを痛感させられたところでした。

五日は「艶の隊長・佐藤正久参議院議員」が、隊友会主催の講演会で来宮され、元自衛官そして現防衛大臣政務官ならではの秘話を拝聴致しました。

六年前に初当選した佐藤議員も、七月二十一日予定の参議院選挙に向けて全国を飛び回っておりますので、高順位で再選出来るよう同封のポスターや名刺広告等を活用されて、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

また十九日は小雨の中、えびの駐屯地創立三十一周年記念式典が挙行され、陸曹候補生が指揮する今春入隊の自衛官候補生の執銃時に於ける基本動作に感心し、模擬戦で炸裂する七四式戦車やFH七〇の轟音を堪能した処です。

ところで三十日、自民党国防部会・安全保障調査会は政府が年内に定める「防衛計画の大綱」に対する提言を了承しました。

平成二十二年、民主党政権下の「大綱」を見直し敵基地攻撃能力の保有や、自衛隊の海兵隊の機能の付与、そして陸自の指揮系統一元化のため陸上総隊の創設等を盛り込んで、防衛省が今月末に出す「中間取りまとめ」への反映を意図しており、近く安倍首相に提出される模様です。

具体的には「ミサイル攻撃などを受ける前に、自衛のため対象国の基地等を攻撃する「敵地攻撃能力」の保持に関しては、我が国独自の打撃力の保持について検討を開始し、速やかに結論を得る」としています。

又中国の海洋進出を睨み、島嶼防衛策に関して垂直離着陸機オスプレイを装備した水陸両用部隊を新設し占拠された島の奪還の為、陸海空三自衛隊が一体となった海兵隊の機能を持つ事などを要請しました。

連日の如く領海侵犯を繰り返す中国艦船や、核やミサイル等で恫喝外交を続ける北朝鮮、自国の歴史を検証する事無く我が国の歴史の歪曲を迫る韓国。

戦中日本兵の月給が十円前後の当時、ソウルの新聞に「慰安婦至急大募集、月収三百円以上」の求人広告が幾つも掲載された事実をつぶさに賢察すれば、橋下発言の要旨は誤っていないと云う事に誰しも気付きそうなものですが？ 愚者は成功に学び、賢者は失敗から学ぶ」そうですが、我々日本人は敗戦と云う「最大の失敗」から一体何を学ぼうとしているのか、改めて憲法前文を読み返し乍ら、複雑な思いに囚われるのは私一人では無いと信じています。結びに、祖国の彌栄と皆様のご健勝を衷心よりご祈念申し上げます。

平成 二十五年 六月 一日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部 支部長 小倉和彦

